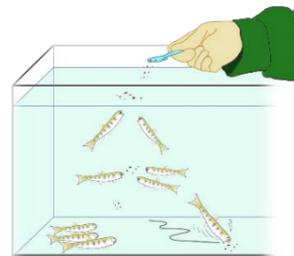


2021年2月4日(木)

工サを食べるサケたち

サケのお腹についていた栄養袋である「さいのう」が見えなくなったので、工サをあげました。

最初は工サだと分からないようになかなか食べてくれません。水槽に工サが残らないよう、食べているかどうかを見ながら、少しずつ入れていきます。



「さいのう」が消え、工サを食べるようになったことで稚魚まで成長したことになります。



仔魚の時は石のかげにかくれていたサケたちですが、今は泳ぎ回っているので、水槽から石をほとんど取りました。これで工サの残りやフンのそうじがしやすくなります。



2021年2月10日(水)

水槽のそうじ

工サをたくさん食べるようになったサケたちは、たくさんフンもします。そのままと水がよごれてしまうので、毎朝ポンプでフンを吸い取っています。

ポンプの口は魚が吸いこまれないよう、小さな穴があいているのですが、稚魚が吸いこみ口には張りつかないよう、その上からネットをかぶせています。



2月10日のツイッターにサケが工サを食べている動画がのっていました。



動物園では赤虫もあげているようです。自然の川にいるサケたちは川の中の虫を食べているのできっと喜んでいでしょう。



川の中にはいろいろな種類の虫がいます。この写真の中で今のサケたちが食べられるのは、丸で囲んだ「ユスリカの幼虫」と「トビケラの幼虫」です。もっと大きくなったら、ほかの虫も食べられるようになります。

2021年2月23日(火)

動物園のサケのようす

旭山動物園のサケの水槽が2つになっていました。サケが大きくなってきたので、分けて育てているそうです。



サケの水槽の外側に砂利が敷いてあるので、川の中のような感じです。



実はサケを育てている水槽の外側の水は海水に近い水なのです。「ほっきょくま館」では大きな水槽が3つ並んでいますが、2つの水槽では、海の魚を飼育しています。



ホッキョクグマのオスとメスが仲良くなくて様子を見るのも楽しみです。

2021年2月25日(木)

幼稚園のサケのようす

教育大学附属旭川幼稚園では200尾のサケを育てているので、群れで泳ぐ姿に迫力があります。



人が工サをくると分かっていのか、水槽の前に立つと近寄ってきます。こちらをじっと見つめるので可愛さ倍増です。